ハスモンヨトウ情報第２号

平成２５年９月３日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

１　発生状況

（１）ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、おおむね平年並で推移しています（図１）。

（２）８月下旬のダイズにおけるハスモンヨトウの被害株率は、県内全域でおおむね平年並の状況です。しかし、東三河地域など一部地域では、寄生株率の高いほ場を確認しています。

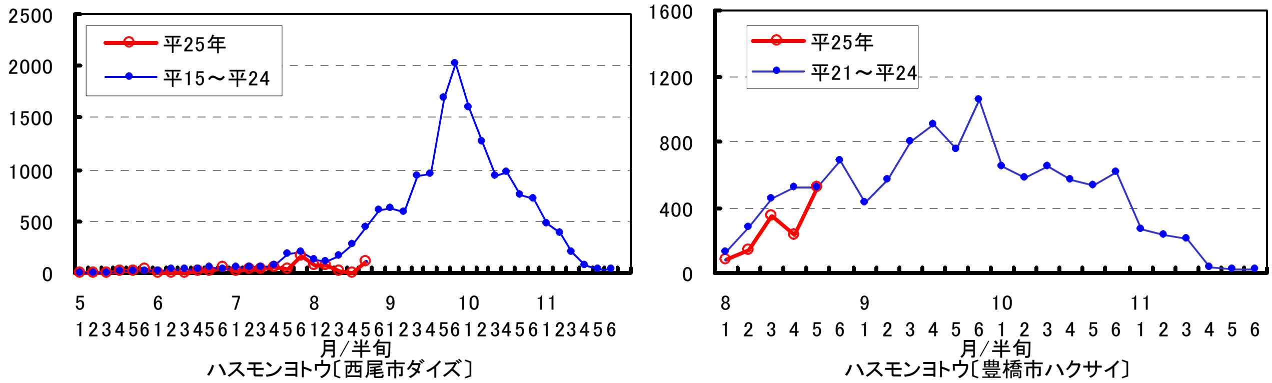

図１　フェロモントラップにおけるハスモンヨトウの誘殺数

２　防除対策

（１）ハスモンヨトウは残暑が厳しく降雨の少ない年に多発する傾向があります。気象予報によれば、９月の気温はやや高く、降水量は多いと予想されていますが、降水量が平年並になった場合は、急増する可能性があります。早めの防除を心がけましょう。

（２）中齢以降の幼虫（図２）は、薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、若齢幼虫期（分散前）（図３）に防除しましょう。

（３）薬剤感受性の低下を防ぐために、同一系統の薬剤を連用しないようにしましょう（表）。

（４）ダイズほ場で白変葉が目立つ場合は、直ちに防除しましょう。

（５）イチゴでは、新芽の部分に好んで食入して見つけにくいので、新芽の部分を開いて寄生を確認しましょう。

図２　ハスモンヨトウ中齢、老齢幼虫

図３　分散前のハスモンヨトウ若齢幼虫

表　ハスモンヨトウの主な防除薬剤

作物名	薬剤名	薬剤の系統（注）
ダイズ	ロムダンフロアブル	a
	ラービンフロアブル	b
	トレボンＥＷ	d
	プレバソンフロアブル５	k
	マッチ乳剤	c
	トルネードエースＤＦ	e
	マトリックフロアブル	a
キャベツ	マッチ乳剤	c
	プレオフロアブル	g
	トルネードエースＤＦ	e
	アニキ乳剤	f
	フェニックス顆粒水和剤	i
	プレバソンフロアブル５	k
	コテツフロアブル	h
ハクサイ	アタブロン乳剤	c
	ラービンフロアブル	b
	アニキ乳剤	f
	フェニックス顆粒水和剤	i
	プレバソンフロアブル５	k
イチゴ	ラービンフロアブル	b
	プレオフロアブル	g
	カスケード乳剤	c
	コテツフロアブル	h
	トルネードエースＤＦ	e
	アニキ乳剤	f
	プレバソンフロアブル５	k
キク	ゼンターリ顆粒水和剤	j
	アニキ乳剤	f
	マッチ乳剤	c
	フェニックス顆粒水和剤	i
	プレバソンフロアブル５	k

注）薬剤の系統：a＝ＩＧＲ剤（脱皮促進）、b＝カーバメート系、c＝ＩＧＲ剤（脱皮阻害）、d＝ピレスロイド系、e＝オキサダイアジン系、f＝マクロライド系、g＝プロペニルオキシフェニル系、h＝ピロール系、i＝ベンゼンジカルボキサミド系、j＝ＢＴ剤、k＝ピラゾール系

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。